

日本初となる「頭皮汗臭を防ぐ」効能の承認取得

マンダム

体臭研究を進めるマンダムはこのほど、リゾチーム塩酸塩、インプロピルメチルフェノール、パラフェノールスルホン酸亜鉛の組み合わせで、頭皮汗臭の予防に効果が発揮できることを見出し、日本で初めて上記3成分を有効成分とした医薬部外品の有効性が認められ、厚生労働省から「頭皮汗臭を防ぐ」効能効果の承認を取得した。

同社が30代後半～40代の男性1万4863名を対象に「ニオイの気になる体の部位」について実施したWeb調査では、「ワキ」(64・7%)の次に「頭」(58・5%)のニオイが気になることがわかっていて、ちなみに20代～50代女性1万人を対象としたWeb調査でも、「頭」(38・5%)は「ワキ」(56・7%)の次にニオイが気になる部位との結果となった。

また、40～50代ミドル男性を対象とした部位別の研究においても、主に後頭部「ワキ」(56・7%)の次にニオイが気になる部位に特有の脂っぽい汗のニオイ「ミドル脂臭」の存在を明らかにし、その研究成果を頭皮のニオイに

対処できる製品開発に応用してきた。

汗臭は、汗中に含まれる成分を皮膚常在菌が代謝することによって発生する。そのため、防臭には殺菌と汗の抑制が効果的であるが、頭のニオイ(頭皮汗臭)を防臭する場合、頭皮の皮脂が課題となっていた。

頭皮は身体の中でも皮脂量が多く、殺菌成分・インプロピルメチルフェノールは、皮脂成分を模した油性成分存在下では油に取り込まれ、殺菌力が低下してしまう。しかし、インプロピルメチルフェノールとリゾチーム塩酸塩を併用した場合、油に取り込まれにくい性質のため、油性成分存在下でも殺菌効果を示し、さらにリゾチーム塩酸塩の濃度を高めると濃度依

が低下してしまう。しかし、インプロピルメチルフェノールとリゾチーム塩酸塩を併用した場合、油に取り込まれにくい性質のため、油性成分存在下でも殺菌効果を示し、さらにリゾチーム塩酸塩の濃度を高めると濃度依

が低下してしまう。しかし、インプロピルメチルフェノールとリゾチーム塩酸塩を併用した場合、油に取り込まれにくい性質のため、油性成分存在下でも殺菌効果を示し、さらにリゾチーム塩酸塩の濃度を高めると濃度依

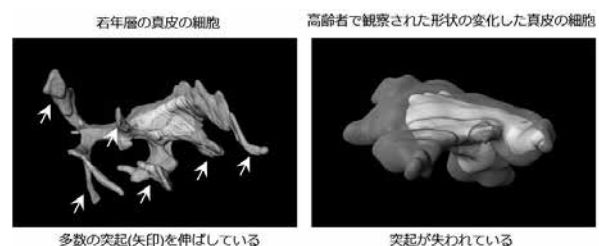
が低下してしまう。しかし、インプロピルメチルフェノールとリゾチーム塩酸塩を併用した場合、油に取り込まれにくい性質のため、油性成分存在下でも殺菌効果を示し、さらにリゾチーム塩酸塩の濃度を高めると濃度依

が低下してしまう。しかし、インプロピルメチルフェノールとリゾチーム塩酸塩を併用した場合、油に取り込まれにくい性質のため、油性成分存在下でも殺菌効果を示し、さらにリゾチーム塩酸塩の濃度を高めると濃度依

が低下してしまう。しかし、インプロピルメチルフェノールとリゾチーム塩酸塩を併用した場合、油に取り込まれにくい性質のため、油性成分存在下でも殺菌効果を示し、さらにリゾチーム塩酸塩の濃度を高めると濃度依

が低下してしまう。しかし、インプロピルメチルフェノールとリゾチーム塩酸塩を併用した場合、油に取り込まれにくい性質のため、油性成分存在下でも殺菌効果を示し、さらにリゾチーム塩酸塩の濃度を高めると濃度依

が低下してしまう。しかし、インプロピルメチルフェノールとリゾチーム塩酸塩を併用した場合、油に取り込まれにくい性質のため、油性成分存在下でも殺菌効果を示し、さらにリゾチーム塩酸塩の濃度を高めると濃度依



石年層の真皮の細胞 高齢者で観察された形状の変化した真皮の細胞

多数の突起(矢印)を伸ばしている 突起が失われている

資生堂は、国際医療福祉大学医学部形成外科学松崎恭一主任教授と生理学研究所との共同研究により、加齢に伴い肌内部で、肌の若返りが期待できる同研究成果を、今後の製品開発へ応用していく。

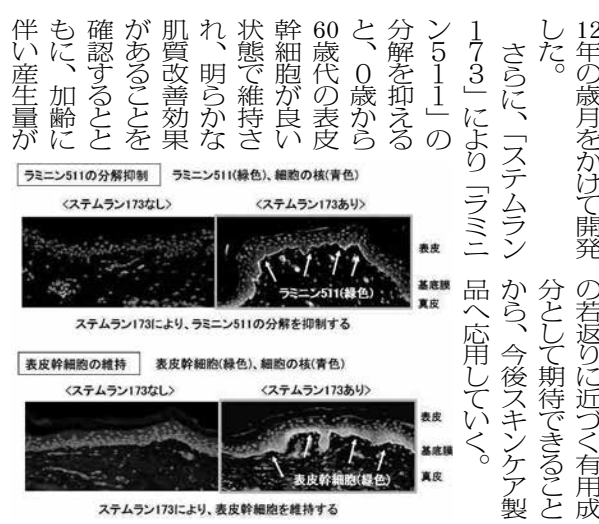
なお、同研究成果の一部は化粧品技術者の世界大会(I F S C C ミュンヘン大会2018)で口頭発表し、最優秀賞を受賞している。

加齢により発生するシワやたるみは、肌の真皮層の状態が加齢で悪化することが大きな要因だが、その詳細なメカニズムは十分にわかっていなかった。

今回の共同研究では、電子顕微鏡解析技術を新たに開発し、細胞の微細な形状までも観察することが成功した。この技術で真皮を解析したところ、若齢者の真皮の細胞は多数の突起を伸ばしているのに対し、高齢者の真皮中には、突起を失い、形状の変化した細胞(老化細胞)が観察された。

細胞を用いた実験の結果、老化細胞は因子(老化因子)を分泌することで、周囲の細胞に悪影響を及ぼすことが確認された。つまり、こうした「老化の伝播」により、真皮の加齢変化が起きることが明らかになった。

同社では、「老化の伝播」をとめる方法を探索したところ、真皮の幹細胞幹細胞を誘引する働きを



合した製品を頭皮に2週間連用し、防臭力を評価した結果、連用後は連用前に比べて有意にニオイ強度が低下していることが確認された。

また、連用後の頭皮のニオイ強度は、洗髪直後の状態を24時間後も維持しているレベルで、十分な防臭効果を有していることも認められた。

合した製品を頭皮に2週間連用し、防臭力を評価した結果、連用後は連用前に比べて有意にニオイ強度が低下していることが確認された。

また、連用後の頭皮のニオイ強度は、洗髪直後の状態を24時間後も維持しているレベルで、十分な防臭効果を有していることも認められた。

合した製品を頭皮に2週間連用し、防臭力を評価した結果、連用後は連用前に比べて有意にニオイ強度が低下していることが確認された。

また、連用後の頭皮のニオイ強度は、洗髪直後の状態を24時間後も維持しているレベルで、十分な防臭効果を有していることも認められた。

合した製品を頭皮に2週間連用し、防臭力を評価した結果、連用後は連用前に比べて有意にニオイ強度が低下していることが確認された。

また、連用後の頭皮のニオイ強度は、洗髪直後の状態を24時間後も維持しているレベルで、十分な防臭効果を有していることも認められた。

合した製品を頭皮に2週間連用し、防臭力を評価した結果、連用後は連用前に比べて有意にニオイ強度が低下していることが確認された。

また、連用後の頭皮のニオイ強度は、洗髪直後の状態を24時間後も維持しているレベルで、十分な防臭効果を有していることも認められた。

合した製品を頭皮に2週間連用し、防臭力を評価した結果、連用後は連用前に比べて有意にニオイ強度が低下していることが確認された。

また、連用後の頭皮のニオイ強度は、洗髪直後の状態を24時間後も維持しているレベルで、十分な防臭効果を有していることも認められた。

合した製品を頭皮に2週間連用し、防臭力を評価した結果、連用後は連用前に比べて有意にニオイ強度が低下していることが確認された。

また、連用後の頭皮のニオイ強度は、洗髪直後の状態を24時間後も維持しているレベルで、十分な防臭効果を有していることも認められた。

合した製品を頭皮に2週間連用し、防臭力を評価した結果、連用後は連用前に比べて有意にニオイ強度が低下していることが確認された。

また、連用後の頭皮のニオイ強度は、洗髪直後の状態を24時間後も維持しているレベルで、十分な防臭効果を有していることも認められた。

合した製品を頭皮に2週間連用し、防臭力を評価した結果、連用後は連用前に比べて有意にニオイ強度が低下していることが確認された。

また、連用後の頭皮のニオイ強度は、洗髪直後の状態を24時間後も維持しているレベルで、十分な防臭効果を有していることも認められた。

合した製品を頭皮に2週間連用し、防臭力を評価した結果、連用後は連用前に比べて有意にニオイ強度が低下していることが確認された。

また、連用後の頭皮のニオイ強度は、洗髪直後の状態を24時間後も維持しているレベルで、十分な防臭効果を有していることも認められた。

合した製品を頭皮に2週間連用し、防臭力を評価した結果、連用後は連用前に比べて有意にニオイ強度が低下していることが確認された。

また、連用後の頭皮のニオイ強度は、洗髪直後の状態を24時間後も維持しているレベルで、十分な防臭効果を有していることも認められた。

合した製品を頭皮に2週間連用し、防臭力を評価した結果、連用後は連用前に比べて有意にニオイ強度が低下していることが確認された。

また、連用後の頭皮のニオイ強度は、洗髪直後の状態を24時間後も維持しているレベルで、十分な防臭効果を有していることも認められた。

合した製品を頭皮に2週間連用し、防臭力を評価した結果、連用後は連用前に比べて有意にニオイ強度が低下していることが確認された。

また、連用後の頭皮のニオイ強度は、洗髪直後の状態を24時間後も維持しているレベルで、十分な防臭効果を有していることも認められた。